

奈良労働局「働き方改革推進本部」だより

奈良労働局では、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得促進をはじめとした「働き方改革」の実現に向けて、伊達浩二労働局長を本部長とする「働き方改革推進本部」を設置し、県内の経済団体等・企業経営者に対して、自主的な働き方の見直し（「働き方改革」）を推進しています。また「働き方改革」の一環として、労使協調の下、年次有給休暇の計画的付与制度の導入や、土日・祝日に年次有給休暇を組み合わせる「プラスワン休暇」の実施を推進しています。

平成30年6月21日

県内企業経営者に「働き方改革」取り組みを要請

この日は、県内の企業経営者に対する働きかけとして、伊達本部長が関西美術印刷株式会社（奈良市）を訪問して、西田専務取締役等に要請書を手渡し「働き方改革」の取り組みに関する協力要請を行いました。

（1）訪問企業の紹介

創業53年の全国の学校の卒業アルバムの制作等を行う印刷事業者。

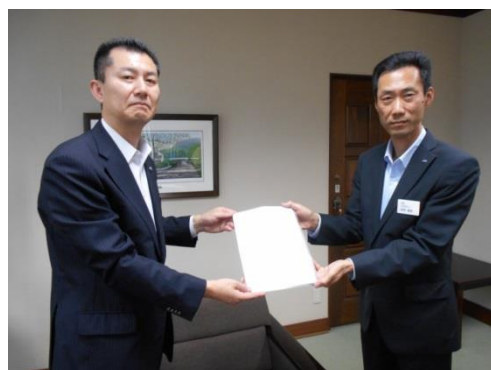
毎年12月から3月の繁忙期は月100時間以上の時間外労働を行う一方、閑散期は全く残業がないほど、閑繁の差が激しいのが課題。閑散期に同人誌の印刷の仕事を始めるなど平準化を進め、残業時間の削減に努めている。年休の取得は、繁忙期は難しいので、閑散期にまとめて取っている状況。社員の3割強が女性である。10年以上前に育休を取得した社員がおり、現在は結婚、出産、育休、復職の流れが自然に出来上がっているとのこと。



関西美術印刷株式会社 本社

（2）懇談の中で出た働き方改革にかかる意見・取組の内容

○現在国会で審議されている残業時間の上限規制は当社に取って大きな問題と受け止めている。主力事業が卒業アルバムの制作であるため1月から3月の繁忙期の残業時間をいかに削減するかが課題である。現在もっとも時間がかかるデザイン業務について、1次レイアウトのA1化を検討している。しかし、技術的にすぐには難しいので、残業時間の上限規制の中小企業への適用について、猶予期間を十分設けていただけるよう要望したい。



西田専務取締役（右）に
要請書を手渡す伊達本部長（左）

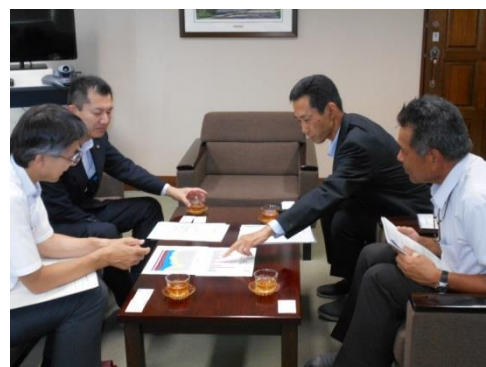
○年間業務量の差については、閑散期の業務を増加させることにより、繁忙期に対応できるだけの体制を維持できるよう取り組んでいる。平成3年頃社員の娘さんのアイデアがきっかけでコミックマーケットの同人誌の印刷を始めた。現在では売上げの半分近くを占めるなど効果を得た。

○年休取得について、繁忙期にはなかなか取れない反面、年間の予定は立つので閑散期にまとめて取得することができる。時間単位の取得も3年前に導入した。労務管理が煩雑になるが、取得向上につながっており、メリットが上回っていると考えている。毎年新卒を採用しているが、応募者から年間休日や年休取得についての質問が増えており、意識の変化を感じている。

○女性活躍については、10年以上前に育休を取得し復職した社員をきっかけに、自然に育休を取得し、復職する流れができています。女性社員から「くるみん」取得を提案されるぐらいである。一方、男性社員の育休取得の実績はまだない。これは育休取得による収入減が阻害要因になっていると思うので、行政のさらなる援助が必要と考える。



懇談の様子



資料を示し取組を説明される西田専務取締役